山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第10集

K-729

吉原Ⅰ遺跡

店舗建設工事に伴う
発掘調査報告書

2001

株式会社カワチ薬品
山形市教育委員会

吉原（よしはら）Ⅰ（いち）遺跡

店舗建設工事に伴う
発掘調査報告書

平成13年3月

株式会社カワチ薬品
山形市教育委員会

序

本書は、山形市教育委員会が平成12年度に発掘調査を行った吉原Ⅰ遺跡の調査成果をまとめたものです。

調査では、奈良～平安時代の土坑や近世の土葬墓などが検出され、当時の生活を物語る貴重な資料を得ることが出来ました。

山形市内には、国指定史跡「山形城跡」や「嶋遺跡」をはじめ、約300箇所ほどの埋蔵文化財を包蔵する遺跡が確認されています。これらの遺跡は、郷土の歴史や文化を正しく理解する上で、欠くことのできない市民共有の歴史的財産となっています。

こうした状況のもと、近年は、市内各所において、住民福祉の向上を目的とした各種の社会整備に関する開発事業が増加しており、埋蔵文化財保護との調整の結果、遺跡の発掘調査に至る場合が多くなっています。特に、平成５年度以降は、市内各地域で大規模な土地区画整理事業が展開されたこともあり、発掘調査の件数及び調査面積が、急激に増大しているところです。また、史跡「山形城跡」の保存や整備を目的とした発掘調査も、継続されているところです。

本書が、埋蔵文化財の保護と啓蒙のために、そして、皆様の郷土史探求の一助としてご活用いただければ、誠に幸いであります。

最後になりましたが、調査にあたって、埋蔵文化財の保護に特段のご理解をいただき、発掘調査に多大なご協力をいただきました事業者や工事関係者の皆様並びに関係各位に、厚くお礼申し上げます。

平成13年３月

山形市教育委員会
教育長　相　田　良　一

例　　言

1　本書は吉原土地区画整理事業地内に計画された株式会社カワチ薬品山形南店建設事業に係る「吉原Ⅰ遺跡」の発掘調査報告書である。

2　調査は株式会社カワチ薬品の依頼により、山形市教育委員会が実施した。

3　調査要項は下記の通りである。

遺　　跡　　名　吉原Ⅰ遺跡
所　　在　　地　山形県山形市大字吉原字若宮
調査事業の主体　株式会社カワチ薬品
調査実施の機関　山形市教育委員会文化課
調　査　期　間　現地調査　平成12年３月15日～平成12年４月７日
調 査 担 当 者　山形市教育委員会文化課　課　　長　石澤孝一郎
課 長 補 佐　工藤　義夫
文化財係係長　江川　　隆
文化財係主事　植松　　薫
〃　　五十嵐貴久
臨 時 職 員　高橋　　拓

4　発掘調査及び本書を作成するにあたり、株式会社カワチ薬品、西松建設株式会社、有限会社平田建築設計、山形市吉原土地区画整理組合、山形市立第十中学校等の関係諸機関の協力を得た。ここに記して感謝申し上げる。

5　本書の作成・執筆・編集は植松薫が担当した。

6　発掘調査及び出土遺物の整理にあたっては、以下の方々からご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。(敬称略)

岩田　巌、大津　弘、小笠原吉二、開沼孝子、粕谷和夫、草刈保子、栗原清子、
栗原武夫、佐藤和子、中村達久、布施哲二郎、町田雅樹(現地調査)
芦名久子、伊藤真喜子、佐々木郁子、関口幸子(出土遺物整理)

7　出土遺物・調査記録類については、山形市教育委員会文化課が一括保管している。

凡　　例

1　本書で使用した遺構・遺物の分類記号は以下の通りである。

ＳＫ…土坑　ＳＤ…溝跡　ＳＰ…柱穴・ピット　Ｐ…土器　Ｓ…石

2　遺構番号は現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3　報告書執筆基準は下記の通りである。

(1)　遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。

(2)　グリッドの南北軸はＮ－10°12′40″－Ｅを測る。

(3)　遺構実測図は１/20～1/400の縮図で採録し、各々スケールを付した。

(4)　遺物実測図・拓影図は原寸で採録し、スケールを付した。なお、土師器は断面白抜き、須恵器は断面黒ベタとした。

(5)　遺物図版については任意の縮尺である。

(6)　遺物番号は遺物実測図・遺物図版ともに共通したものである。遺構挿図中に図示している遺物も同様である。

(7)　遺構覆土の色調の記載については1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目　次

Ⅰ　調査の経緯
　1　調査に至る経過……1
　2　調査の経過……1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1　地理的環境……3
　2　歴史的環境……3
Ⅲ　遺跡の概観
　1　遺跡の層序……5
　2　遺構と遺物の分布……5
Ⅳ　検出された遺構と出土した遺物
　1　土坑……8
　2　溝跡……12
　3　柱穴・ピット……12
Ⅴ　まとめ……15
報告書抄録……16

表

遺構計測表……12

挿　図

第１図　遺跡位置図 ……2
第２図　調査概要図 ……4
第３図　基本層序 ……6
第４図　遺構配置図 ……7
第５図　ＳＫ401・402土坑 ……9
第６図　ＳＫ403・405・406土坑……10
第７図　ＳＫ407土坑……11
第８図　ＳＤ409･420溝跡･ＳＰ410･411柱穴
……13
第９図　出土遺物 ……14

図　版

図版１　遺構完掘状況他
図版２　調査前状況他
図版３　面精査作業他
図版４　Ａ区完掘状況他
図版５　Ｂ区基本層序他
図版６　Ｄ区ＳＫ407検出他
図版７　ＳＫ407板材検出状況他
図版８　Ｅ区ＳＤ420検出状況他
図版９　出土遺物（１）
図版10　出土遺物（２）

Ⅰ　調査の経緯

1　調査に至る経過

吉原Ⅰ遺跡は平成６年度の分布調査により、新規発見・登録された遺跡である。吉原地区内に土地区画整理事業が計画され、山形市教育委員会では事業計画区域内の遺跡の有無を確認するための分布調査を平成６年より実施してきた。その結果、事業地内に吉原Ⅰ～Ⅶ遺跡、若宮の楯跡の計８遺跡があることが確認された。吉原Ⅰ遺跡については平成７年度に試掘調査を行い、遺跡の時期などの詳細な情報と遺跡範囲などが確認された。その後土地区画整理事業の進展に伴い、山形市教育委員会文化課では遺跡内に計画された都市計画道路や街区道路について、遺跡の取り扱いについての協議と調整を関係機関と行い、やむを得ず破壊される場合は工事の前段に記録保存のための緊急発掘調査を平成９年より実施してきている。

平成９年度、事業内の都市計画道路及び街区道路工事の計画が具体化されたことにより遺跡の保護と開発についての協議を重ねた結果、平成10年度４月～11月まで断続的に発掘調査が行われた。その結果、奈良～平安時代の規格性を持つ掘立柱建物跡群や、中世の堀跡、掘立柱建物跡、竪穴状遺構などが確認され、古代並びに中世の吉原地区の集落の様相の一端を示す良好な資料が得られている。平成11年度には同じく事業地内の大型店舗の敷地造成に係る発掘調査を実施している。

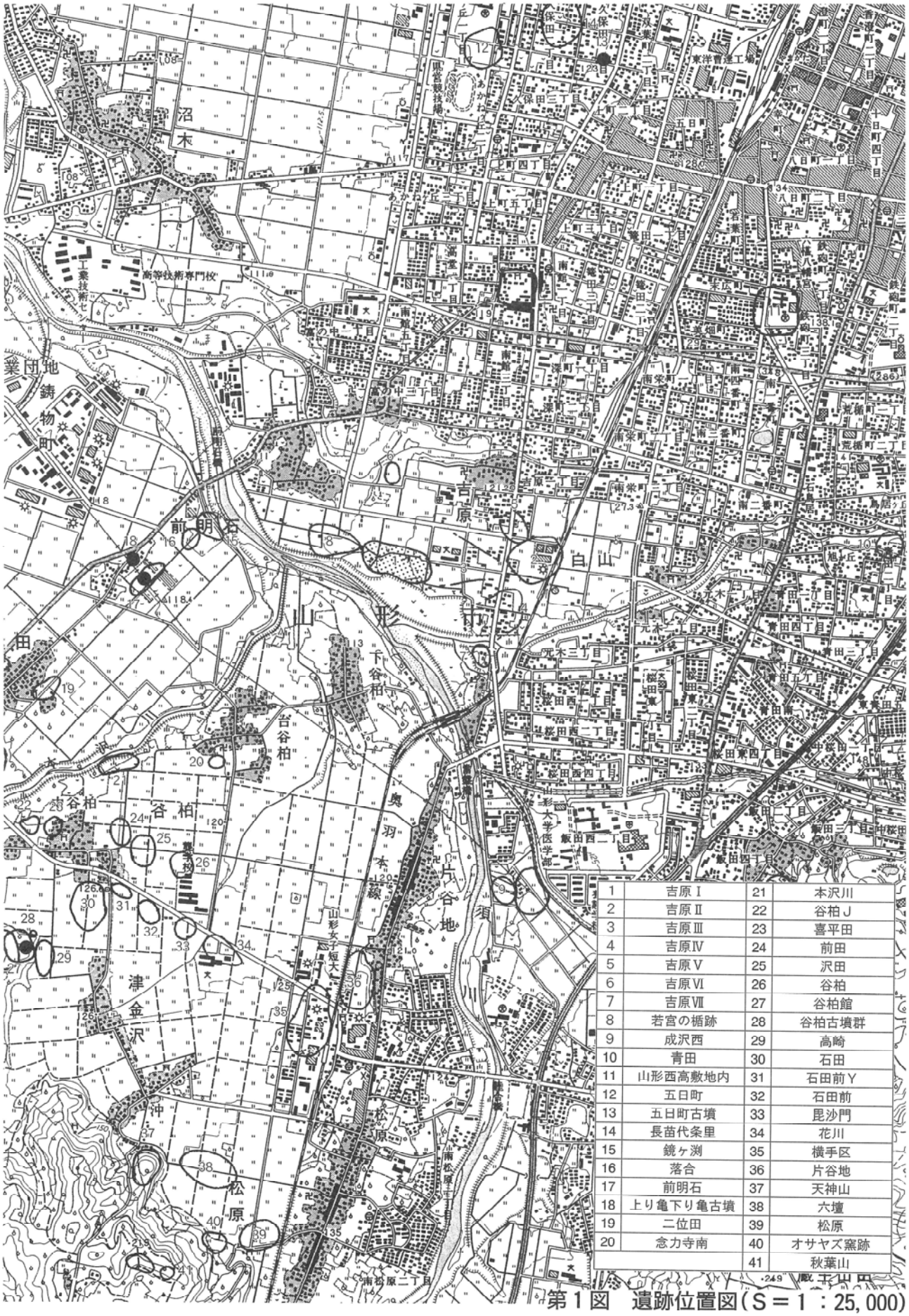
平成12年３月、吉原Ⅰ遺跡地内において株式会社カワチ薬品山形南店建設事業が実施されることになった。店舗が建設される部分は平成10年度の調査区の東に隣接しており、遺構の広がりが当然予想される地区でもあるため、協議を重ねた結果、遺跡に影響が及ぶ建築物の基礎部分について記録保存を図ることとし、株式会社カワチ薬品の依頼を受けて山形市教育委員会文化課が発掘調査を実施することになったものである。

2　調査の経過

調査は平成12年３月15日から４月７日までの実質17日間実施した。調査面積は建築物の基礎が入る部分、約560㎡である。

３月15日に発掘器材の搬入を行う。調査区は調査の便宜上北からＡ～Ｅ区とする。重機を用いて表土を除去し、Ａ区から面整理を行った。調査区を覆う座標は調査区の中央に任意の杭を設定し、その杭を基準とした東西・南北軸の４ｍ四方の方眼(グリッド)を設定した。東西軸は西から東に０～10まで、南北軸は北から南にＡ～Ｌまで付番して「Ａ－１」のように表記した。

調査は表土除去終了後、Ａ区から開始し面整理を繰り返しながら遺構検出・マーキングを行い、遺構の概略図を作成した。その後、遺構検出状況の写真撮影、遺構登録・遺構精査を行った。遺構の精査にあわせ、遺構の平面図、断面図の作成、遺物の検出及び登録、写真撮影、土層注記等の記録作業、遺物取り上げ等を行った．３月半ば～４月初めという時節柄、降雪などの天候不順や寒さ、排水作業などに作業の大部分をとられる調査となった。４月７日発掘器材等の撤収を行って、現地調査を終了した。



第１図　遺跡位置図（Ｓ＝１：25,000）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　地理的環境

吉原Ⅰ遺跡の所在している山形市は山形盆地の東南部に位置する。山形盆地は南北40km、東西10kmの南北に長い舟底型の盆地である。

吉原Ⅰ遺跡は山形市の南部、市街地から約３km離れた山形市大字吉原字若宮地内に所在する。山形市街地は馬見ヶ崎川扇状地上に発展し、東の奥羽山脈から盆地西側を北流する須川に向かってやや傾斜する地形となっている。本遺跡は馬見ヶ崎川の扇状地扇端部にあたり、遺跡は須川右岸の微高地上に立地している。須川河床からの比高差は約６ｍを測る。遺跡範囲は東西240m、南北110mに広がり、付近の標高は118～119mを測る。調査前の現況は畑及び水田として利用されていた。本地区の北側を犬川、南側を竜山川が西流しており、本遺跡は須川と犬川、竜山川の合流点近くに位置し、旧羽州街道が本遺跡に接していたことなどから、水・陸上交通の要衝の地であったと考えられる。

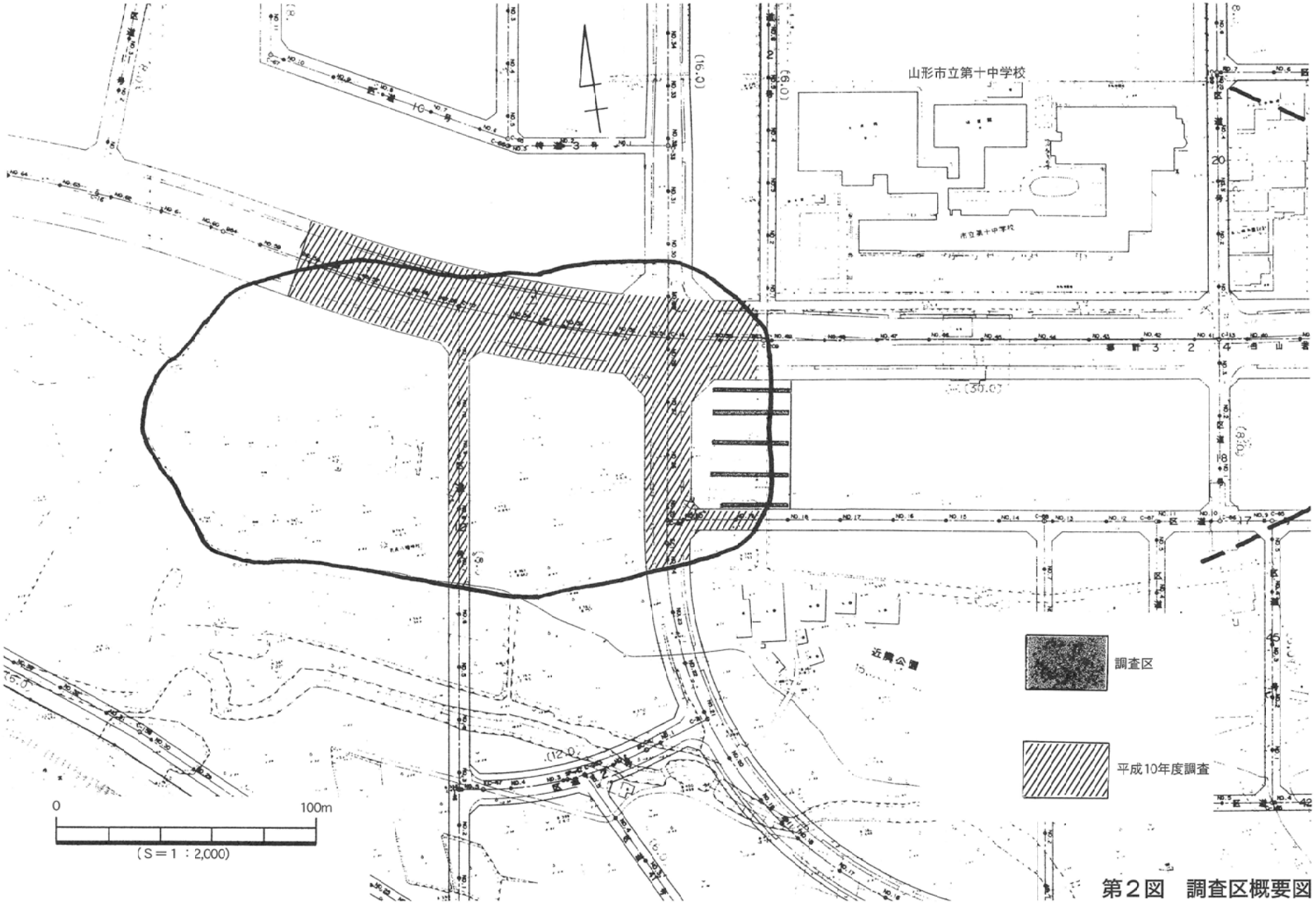
2　歴史的環境

山形市内では現在約300箇所の遺跡が確認されている。近年は山形市内においても各地域での土地区画整理事業の進展に伴い埋蔵文化財と開発との調整が増加してきている。本遺跡も山形市吉原土地区画整理事業に伴い、新規に発見された遺跡である。

吉原地区内には吉原Ⅰ～Ⅶ、若宮の楯跡の計８遺跡が確認されている。吉原Ⅰ～Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ遺跡は奈良～平安時代の遺跡で、特にⅠ～Ⅳ遺跡は吉原遺跡群として全体的な捉え方が必要な遺跡と考えられる。特に吉原Ⅱ遺跡では１ｍ前後の掘り方を持つ掘立柱建物跡が確認されており、建物の規模や配置等から官衙的な施設である可能性が検討されている。また、吉原Ⅴ遺跡は縄文時代中期の遺跡で平成９年度個人住宅の建設に係り発掘調査が行われている。若宮の楯跡は、平成10・11年に発掘調査が実施され、堀跡、堀立柱建物跡などの遺構が検出された。

本遺跡と同様に、市内南部で確認されている遺跡は須川両岸とも扇状地の扇端部付近に比較的多く立地している。双葉町遺跡、山形西高敷地内遺跡などは縄文、古代、中世、近世など複数の時代にわたる遺構・遺物が検出されている。また本遺跡の約1.5km南方に位置する成沢西遺跡では平安時代の三面に廂をもつ大型の掘立柱建物跡が検出されており、その当時の有力者の居宅あるいは官衙的な施設と推定されている。更に柏倉亮吉氏によれば、南館から富の中、吉原にかけての一帯は条里制の痕跡が認められるとの研究がなされている。

須川左岸地域では白鷹山丘陵より東流する富神川、本沢川などの形成した扇状地上に縄文時代から古代にかけての遺跡が多く分布している。丘陵には二段構築の円墳で武人型埴輪などを出土している菅沢二号墳を始めとする菅沢古墳群、大ノ越古墳群、谷柏古墳群などの古墳が多く点在し、あわせて萩原遺跡や谷柏遺跡などの古墳時代の集落跡も確認されている。この地域は奈良～平安時代の遺跡も多く、条里遺構も広範囲に分布している。 近年調査がなされた石田遺跡では、掘立柱建物跡と囲繞施設が検出されており、吉原Ⅰ遺跡と時期、遺跡内容も類似する。小松原から上山西部丘陵には奈良～平安時代初頭の窯跡群が８地点で確認されており、オサヤズ窯跡や小松原窯跡などが調査され、その内容が明らかになってきている。



第２図　調査区概要図

Ⅲ　遺跡の概観

1　遺跡層序

吉原Ⅰ遺跡の今調査区は遺跡範囲の東端部に位置する。地形的には馬見ヶ崎川扇状地の扇端部にあたり、東から西に向けて緩やかに傾斜している。遺跡範囲の大半は果樹及び畑地として利用されるが、今回の調査区の部分については一部農道が南北に縦断し、その農道を挟み東西が水田として利用されていた。

調査区内で観察された基本的な層序は概ね５層に大別される(第３図)。Ⅰ：黒褐色粘質土(水田耕作土)、Ⅱ：黒褐色粘質土(旧耕作土)、Ⅲ：黒褐色土(遺物包含層)、Ⅳ：暗褐色土(地山)、Ⅴ：褐色粘質土(地山)となる。

Ⅰ層は表土・耕作土、Ⅱ層は旧耕作土である。Ⅲ層の遺物包含層は部分的に見られる層で、耕地整理や耕作などの際にすでに削平されている。

遺構の検出面はⅣ層上面と捉えたが、旧耕作による撹乱や削平が著しく、一部Ⅴ層上面での検出になっている。農道が敷設された部分についてはⅢ層の遺物包含層の上部に客土されたと考えられる。

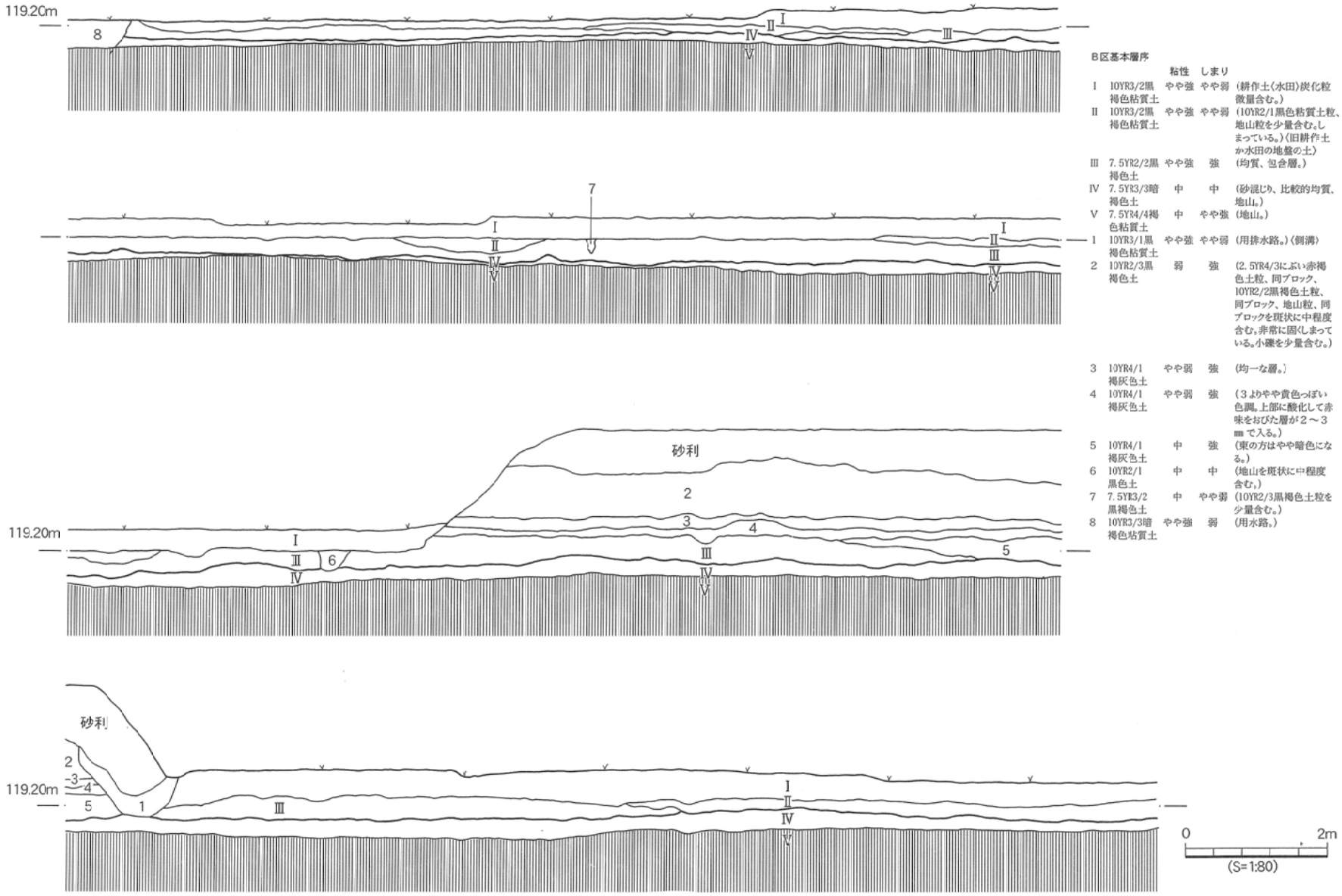
2　遺構と遺物の分布

遺構は調査区全域に分布するが、全体的に密度は低い。また、耕地整理や耕作等による削平のためか遺構の深さも一部を除き浅い。

検出された遺構は奈良～平安時代の土坑、近世の土葬墓・火葬墓、溝跡や柱穴・ピット群などである。また、風倒木痕も４ヶ所で確認された。奈良～平安時代の土坑はＡ区、近世の土葬墓・火葬墓はＤ区で検出された。また、各柱穴跡やピット群はＡ～Ｄ区を通して散在しているが、建物跡を構成するには至らなかった。

遺物も遺構と同様、散発的で極めて少ない。また土坑の覆土内より出土した須恵器片も摩滅しており、あるいは当該期の土坑ではなく中世以降の可能性も窺える。

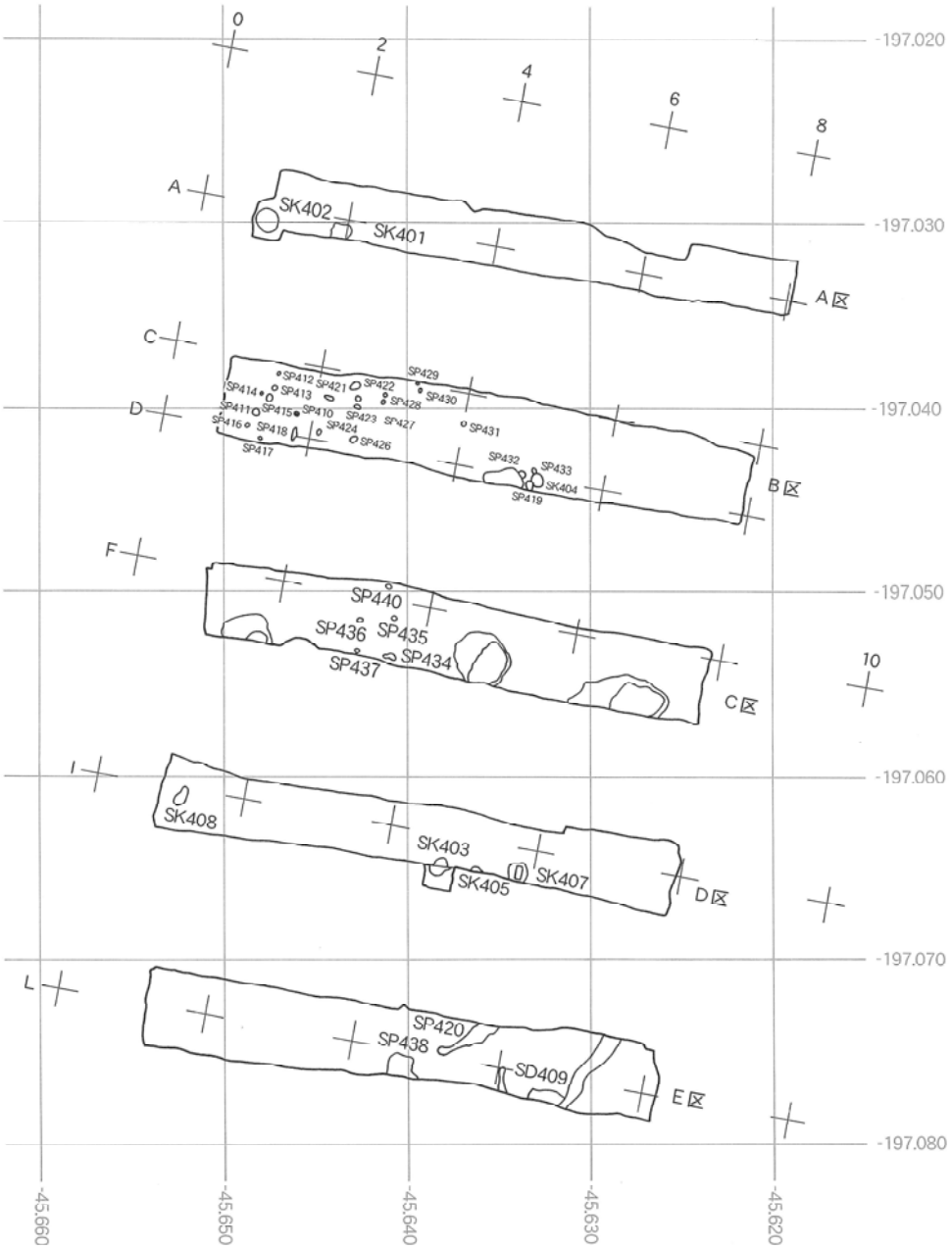
以上のことから今回の調査区は吉原Ⅰ遺跡の集落の縁辺にあたり、主体は平成10年度に調査した部分にあるといえる。



B区基本層序

		粘性	しまり	
Ⅰ	10YR3/2黒褐色粘質土	やや強	やや弱	(耕作土(水田)炭化粒微量含む。)
Ⅱ	10YR3/2黒褐色粘質土	やや強	やや弱	(10YR2/1黒色粘質土粒、地山粒を少量含む。しまっている。)(旧耕作土か水田の地盤の土)
Ⅲ	7.5YR2/2黒褐色土	やや強	強	(均質、包含層。)
Ⅳ	7.5YR3/3暗褐色土	中	中	(砂混じり、比較的均質、地山。)
Ⅴ	7.5YR4/4褐色粘質土	中	やや強	(地山。)
1	10YR3/1黒褐色粘質土	やや強	やや弱	(用排水路。)(側溝)
2	10YR2/3黒褐色土	弱	強	(2.5YR4/3にぶい赤褐色土粒、同ブロック、10YR2/2黒褐色土粒、同ブロック、地山粒、同ブロックを斑状に中程度含む。非常に固くしまっている。小礫を少量含む。)
3	10YR4/1褐灰色土	やや弱	強	(均一な層。)
4	10YR4/1褐灰色土	やや弱	強	(3よりやや黄色っぽい色調。上部に酸化して赤味をおびた層が2～3mmで入る。)
5	10YR4/1褐灰色土	中	強	(東の方はやや暗色になる。)
6	10YR2/1黒色土	中	中	(地山を斑状に中程度含む。)
7	7.5YR3/2黒褐色土	中	やや弱	(10YR2/3黒褐色土粒を少量含む。)
8	10YR3/3暗褐色粘質土	やや強	弱	(用水路。)

第3図　基本層序



0 20m
(S=1:400)

第４図　遺構配置図

Ⅳ　検出した遺構と出土した遺物

1　土坑

本遺跡で土坑として登録した遺構は全部で８基である。以下、個別に概要を述べる。

ＳＫ401(第５図)Ａ区、Ａ－１グリッドに位置する。長軸93㎝、短軸75㎝、検出面からの深さ23.5㎝を測る。南端は調査区外となり全体の平面形は不明であるが略円形を呈すると考えられる。壁は緩やかに掘り込まれており、底面はややＶ字状、覆土は３層からなる。１層下面より摩滅した須恵器甕体部片(９－１)が出土している。外面は格子目状タタキ、内面は無文アテが施される。

ＳＫ402(第５図)Ａ区、Ａ－０グリッドに位置する。長軸127㎝、短軸118㎝、検出面からの深さ79.7㎝を測る。平面形は略円形を呈し、検出面からややすり鉢状に掘りこまれており、覆度は11層からなっている。底面から人頭大の礫が検出されたが、廃棄によるものであろう。覆土中より摩滅した須恵器甕の口縁部片(９－２)が出土している。

ＳＫ403(第６図)Ｄ区、Ｉ－４グリッドに位置する。長軸104㎝、短軸89.5㎝、検出面からの深さ34.5㎝を測る。当初遺構の南半が調査区外となっていたため、一部拡張し遺構全体を検出した。平面形は円形を呈し、検出面から緩やかに掘り込まれ、底面はＵ字状となっている。覆土は４層からなり、３、４層に焼骨片、灰、焼土が多量に含まれている。火葬骨を埋葬した土坑と考えられる。

ＳＫ404(第８図)Ｂ区、Ｄ－５グリッドに位置する。ＳＰ419と重複関係にある。長軸80㎝、短軸66㎝、検出面からの深さ23.9㎝を測る。平面形は不整円形を呈し、底面はＶ字状となっている。遺物は未検出である。

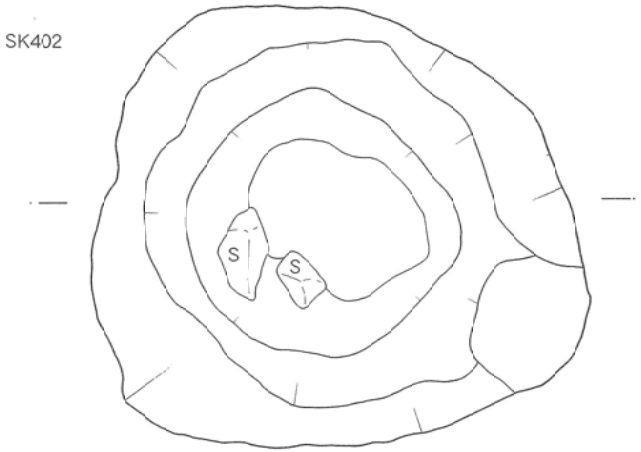
ＳＫ405(第６図)Ｄ区、Ｉ－５グリッドに位置し、ＳＫ406に切られている。遺構の南部が調査区外となっており、北部のみの検出である。平面形は円形を呈するものと考えられる。底面は平坦で、壁は西側はほぼ垂直、東側はやや緩やかに掘り込まれる。覆土は６層からなり、黒褐色シルトを基調とする。遺物は未検出である。

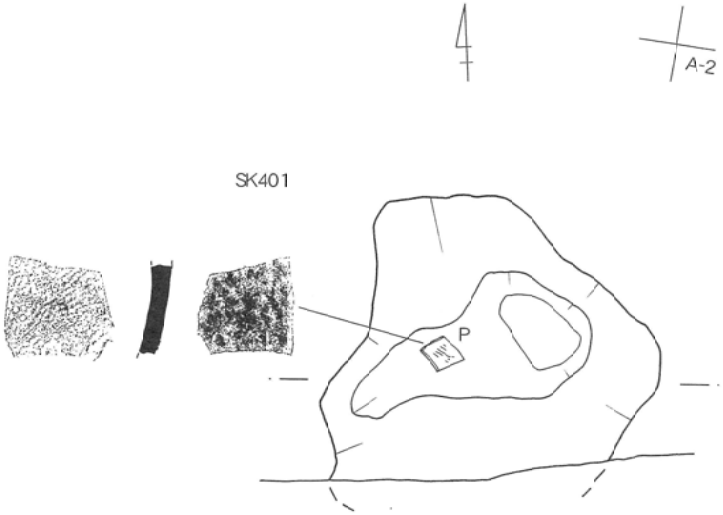
ＳＫ406(第６図)Ｄ区、Ｉ－５グリッドに位置し、ＳＫ405を切る。表土除去の際に検出面を掘り下げてしまったため、ＳＫ406は調査区の南壁面での土層断面による確認にとどまる。覆土は２層からなり、各層から炭化物片、焼骨、焼土粒が混入している。火葬骨を埋葬した土坑と考えられる。

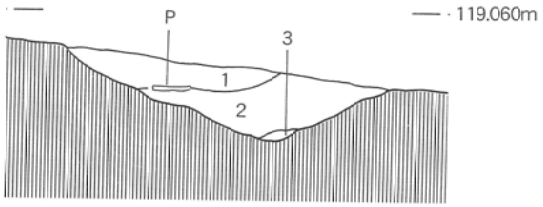
ＳＫ407(第７図)Ｄ区、Ｉ－５グリッドに位置する。南端は調査区外となるため全体の規模は不明であるが、長軸110㎝、短軸103㎝、検出面からの深さ44㎝を測る。堀り方平面形はやや方形に近い円形を呈する。底面は平坦で壁はＶ字状に掘り込まれる。掘り方内部に縦65㎝、横40㎝、高さ45㎝の木棺が設置されている。上蓋は未確認である。木棺の長軸の側板には補強のためか２箇所に幅2.5～４㎝、厚さ0.8～1.2㎝の板が竹クギで留めてある。側板と底板には特にクギ等で留めた痕跡は見られなかったため、土坑構築及び棺の設置、埋葬を同時に行ったと考えられる。掘り方覆土は単層で黒褐色粘質土と地山との混合土で構成される。２～７層は棺内覆土で最下層にあたる７層には、非常に脆くなった骨片が多く含まれていた。骨片に焼けた痕跡などはなく、覆土内に焼土粒もないため、火葬ではなく土葬されたものと考えられる。

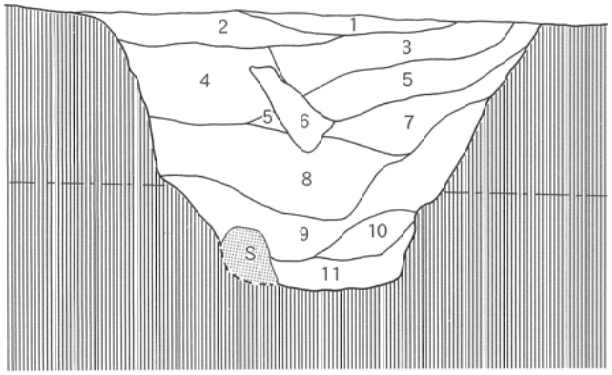
骨片は脆くなっていたため、土ごと取上げを実施した。現場調査終了後、洗浄を行ったところ、歯が15本ほど確認された。また、木棺底板の取上げの際に、底板の下面に新寛永を含む寛永通宝(９－５)が６枚出土した。六道銭と考えられる。その他副葬品などは出土していない。

SK402出土遺物









SK402

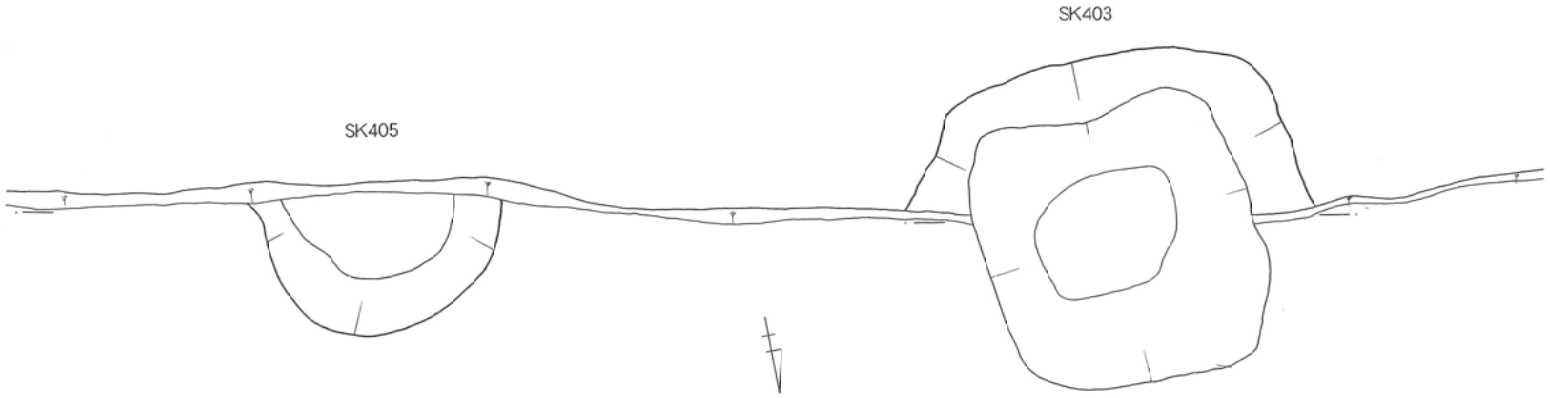
		粘性	しまり	
1	10YR3/1黒褐色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入微量あり。)
2	10YR3/3暗褐色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入少量あり。)
3	10YR2/1黒色シルト	あり	あり	
4	10YR3/1黒褐色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入少量あり。)
5	10YR3/4暗褐色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入多量あり。)
6	地山Aのブロック			
7	10YR2/1黒色シルト	あり	あり	
8	10YR2/1黒色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入多量あり。)
9	10YR2/1黒色シルト	あり	あり	(地山A、ブロック状混入少量あり。)
10	10YR3/1黒褐色シルト	あり	あり	(地山B、地山Aの少ブロックが層状に入る。)
11	10YR2/1黒色シルト	あり	あり	
	9～11は礫の混入がみられる。(坑底周辺)			
地山A	7.5YR4/4褐色シルト	やや強	あり	(鉄分の作用で赤褐色状になっている。層中にはしまりの強いブロック状の粒子が多いが、鉄分の作用によるものか?)
地山B	2.5Y6/4にぶい黄色粘土質シルト	強	強	(表面では上に同じく鉄分の作用で赤褐色に変色している状況。)

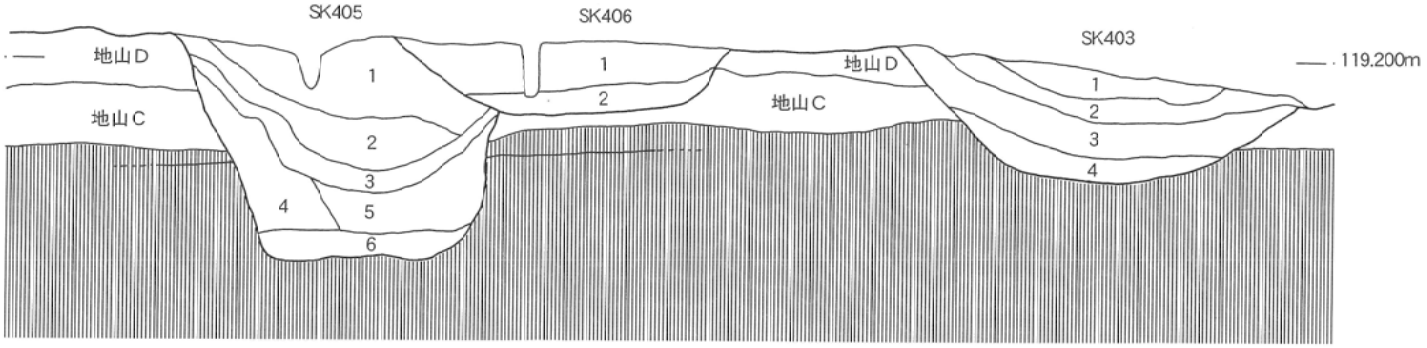
SK401

		粘性	しまり	
1	10YR2/1黒色土	中	中	(地山粒、同ブロックを中程度含む。)
2	10YR2/2黒褐色土	やや強	中	(焼土粒、土器片を含む。地山粒を少量含む。)
3	10YR4/6褐色粘質土	中	やや強	(10YR2/2黒褐色土粒、同ブロックを多く含む。)

0 1m
(S=1:20)

第5図　SK401・402土坑





SK405

		粘性	しまり	
1	10YR2/2黒褐色砂質土	ややあり	あり	(地山Bのブロックと黒土のブロックが混入する。)〈地山多量、黒土少量〉
2	10YR3/2黒褐色シルト	あり	あり	(地山Bのブロック状混入少量あり。〉
3	10YR3/1黒褐色シルト	あり	やや弱	(地山Bのブロック状混入少量、黒土のブロック多量混入。〉
4	10YR3/1黒褐色シルト	あり	やや弱	(地山Bのブロックにある埋土。)
5	10YR3/2黒褐色シルト	やや強	やや弱	(地山Bのブロック状混入少量、黒土のブロック状混入少量。)
6	10YR2/1黒色粘土質シルト	強	やや弱	(地山Bのブロックが微量混入。)

地山A　10YR4/4褐色シルト
地山B　2.5Y6/4にぶい黄色粘土質シルト
地山C　10YR3/2黒褐色砂質土　(黒土から黄色地山への漸移層に相当する。図では非常に厚いが、この周囲の地山が少々乱れているため。)
地山D　10YR2/1黒色砂質土　(黒土で遺物包含層に相当する。)〈旧地表はこの層の上層にある可能性が高い。〉

SK406

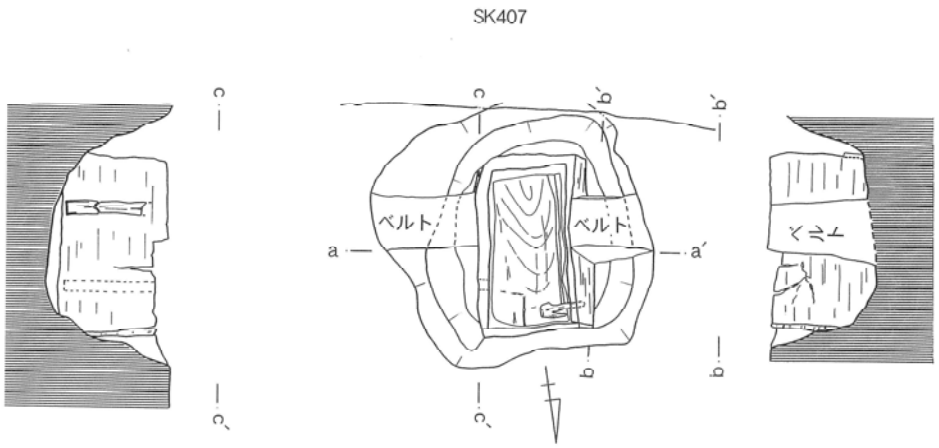
		粘性	しまり	
1	10YR2/2黒褐色砂質土	ややあり	あり	(炭化物片ブロック、焼骨片、焼土粒が多量混入。)
2	10YR2/1黒色砂質土	なし	やや弱	(炭化物片ブロック、焼骨片、焼土粒が多量混入。)

SK403

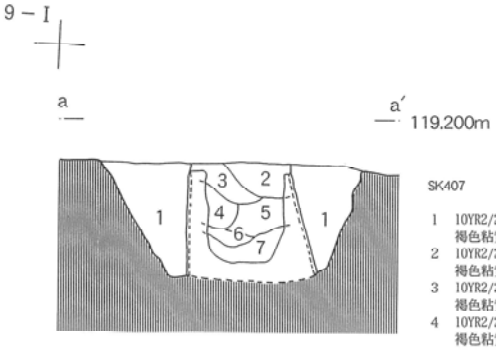
		粘性	しまり	
1	7.5YR2/1黒色土	中	やや強	(地山粒、同ブロックを中程度含む。丸礫〈10〜20mm〉を少量含む。〉
2	7.5YR2/1黒色土	中	中	(地山粒、同ブロック、7.5YR3/3暗褐色土粒、同ブロックを多く含む。)
3	10YR2/1黒色土	中	やや弱	(やや青みをおびた色調。〈灰の影響か?〉炭、焼土粒、骨片を中程度含む。7.5YR3/2黒褐色土ブロックを多く含む。)
4	10YR2/1黒色土	中	弱	(内容物は基本的に3と同じだが骨片を3より多く含む。)

0　1m
(S＝1：20)

第6図　SK403・405・406土坑

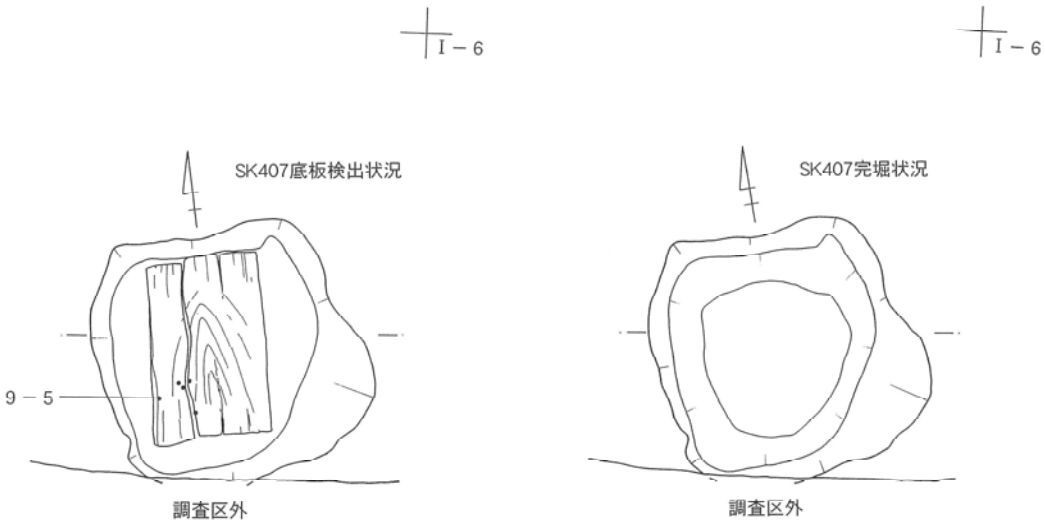


※水系レベルは全て119.20m



SK407

		粘性	しまり	
1	10YR2/2黒褐色粘質土	やや強	やや強	(10YR6/6明黄褐色粘質土(地山B)ブロックを多量に含む。)
2	10YR2/2黒褐色粘質土	中	やや強	(やや赤みをおびた色調。焼け焦げのある木片、炭を含む。地山粒(5～6mm大)を中程度含む。)
3	10YR2/2黒褐色粘質土	やや強	やや強	(地山粒、炭化粒を少量含む。)
4	10YR2/2黒褐色粘質土	やや強	やや強	(10YR1.7/1黒色土ブロック、地山ブロックをやや多く含む。)
5	7.5YR3/1黒褐色粘質土	強	中	(10YR1.7/1黒色土ブロック、地山ブロックを中程度含む。)
6	7.5YR3/1黒褐色粘質土	強	中	(地山ブロックを少量含む。)
7	7.5YR3/2黒褐色粘質土	強	中	(地山ブロック(大)を多く含む。水分が多く、粘性が強い。下部に骨片が混入する。)



※黒丸印は寛永通宝出土地点

0　1m
(S=1:30)

第７図　ＳＫ407土坑

2　溝跡

今回の調査で検出された溝跡は３条である。以下、個別に概略を述べる。

ＳＤ409(第８図)Ｅ区、Ｌ－６グリッドに位置する。東西に伸びる溝跡で幅21～38㎝、検出された長さ134㎝、検出面からの深さ7.9㎝を測る。南端は調査区外に伸びる。底面はＵ字状を呈する。覆土は単層で、炭化粒を微量に含んだ黒色土である。遺物は未検出である。

ＳＤ420(第８図)Ｅ区、Ｋ－５グリッドに位置する。北東から南西に延びる溝跡で、幅43～103㎝、検出された長さ357㎝、検出面からの深さ7.2㎝を測る。底面は凹凸があり平坦ではない。遺物は未検出である。

ＳＤ438(第８図)Ｅ区、Ｌ－４グリッドに位置する。覆土、検出された位置などからＳＤ420と同一の遺構と判断した。

3　柱穴・ピット

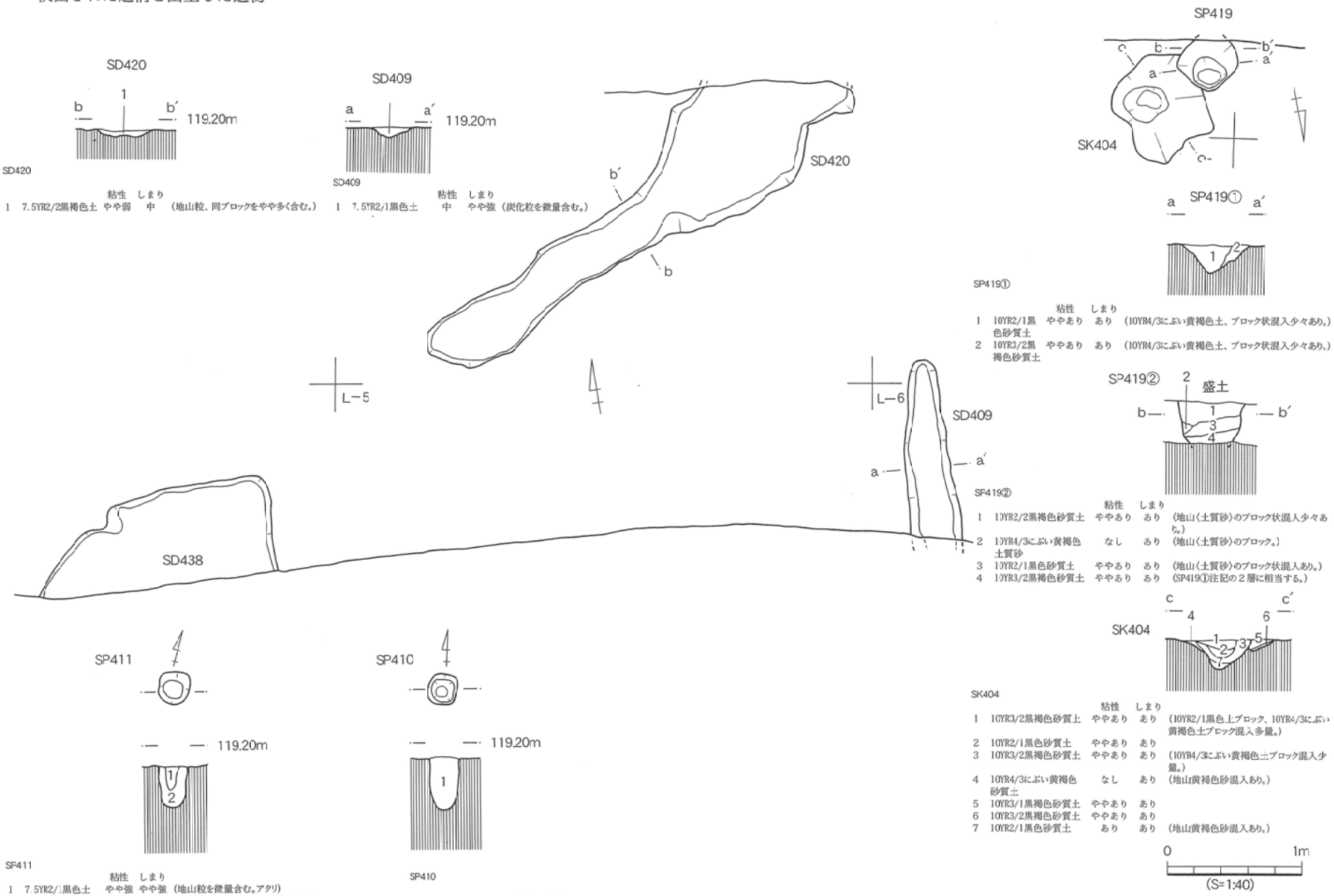
柱穴として登録した遺構は28基ある。特にＢ、Ｃ区に多く検出された。その大半は検出面からの深さも浅く、規模も小さいものが大半である事から、柱穴として利用されたものは少ないと考えられる。ここでは規模や形態から明らかに柱穴として判断された遺構について述べる。

ＳＰ410(第８図)Ｂ区、Ｃ－２グリッドに位置する。平面形は隅丸方形である。長軸26㎝、短軸24㎝、検出面からの深さ37.5㎝を測る。覆土は黒色土に地山粒を少量含む。遺物は出土していない。

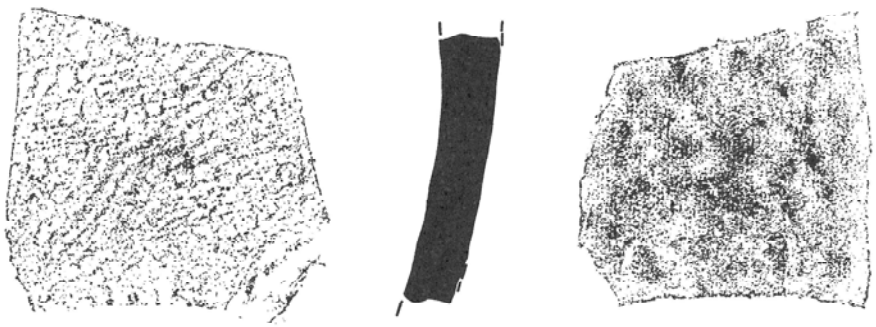
ＳＰ411(第８図)Ｂ区、Ｄ－０グリッドに位置する。平面形は隅丸方形である。径26㎝、検出面からの深さ34.9㎝を測る。覆土は２層からなり、柱痕跡も確認された。

遺構番号	調査区	検出地点	平面形	遺構番号(㎝)			備　考
				長軸	短軸	深さ	
SK 401	A	A － 1	略円形	93	75	23.5	
SK 402	A	A － 0	略円形	127	118	79.7	
SK 403	D	I － 4	円形	104	90	34.5	
SK 404	B	D － 5	不整円形	80	66	23.9	
SK 405	D	I － 5	円形	73	39	39.4	
SK 407	D	I － 5	円形	110	(103)	44	
SK 408	D	I － 1	楕円形	94	58	3.2	
SD 409	E	L － 6	—	21～38	(134)	7.9	南北に伸びる溝跡
SP 410	B	C － 1	隅丸方形	26	24	37.5	
SP 411	B	C － 1	隅丸方形	26	26	34.9	
SP 412	B	C － 1	略円形	20	18	14.1	
SP 413	B	C － 1	円形	22	19	6.3	
SP 414	B	C － 1	円形	25	17	8.9	
SP 415	B	C － 1	円形	23	17	9.4	
SP 416	B	C － 1	楕円形	29	18	12.1	
SP 417	B	D － 1	略円形	22	16	13.9	
SD 418	B	D － 1	—		22	2.7	
SP 419	B	D － 4	円形	45	37	22.9	
SD 420	E	K － 5	—	43～103	(357)	7.2	北東から南西に伸びる溝跡
SP 421	B	C － 2	不整楕円形	58	29	22.4	
SP 422	B	C － 2	楕円形	45	28	12	
SP 423	B	C － 2	略円形	25	21	8.3	
SP 424	B	C － 2	楕円形	41	22	38.4	
SP 426	B	C － 2	円形	28	24	30.8	
SP 427	B	C － 2	円形	15	13	8.5	
SP 428	B	C － 2	円形	16	14	11.9	
SP 429	B	C － 3	略円形	22	16	43.6	
SP 430	B	C － 3	略円形	26	19	7.6	
SP 431	B	C － 3	楕円形	53	25	17.3	
SP 432	B	C － 4	不整楕円形	36	29	23.1	
SP 433	B	C － 4	楕円形	49	26	11.6	
SP 434	C	F － 3	不整楕円形	59	17	14.2	
SP 435	C	F － 3	円形	22	18	22.9	
SP 436	C	F － 2	円形	21	16	31.3	
SP 437	C	F － 3	楕円形	16	8	13.8	
SD 438	E	L － 4	—	88	(140)	18.1	SD420と一連の遺構
SP 439	E	K － 4	円形	21	21	16.8	
SP 440	C	E － 3	円形	12	7	12.8	

遺構計測表



第8図 ＳＤ409・420溝跡・ＳＰ410・411柱穴 他



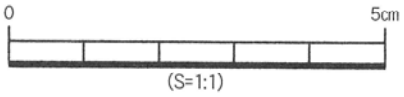
1．SK401F

2．SK402F

3．表土

4．表土

5．SK407Y



第９図　出土遺物

V　まとめ

今回の調査は、吉原土地区画整理事業地内に計画された株式会社カワチ薬品山形南店建設事業に係る緊急発掘調査である。調査面積は店舗の基礎に係る部分、約560㎡である。

吉原Ⅰ遺跡は山形市の南部、吉原地区に所在し、馬見ヶ崎川扇状地の扇端部に立地する。奈良～平安時代、中世、近世の遺跡である。

検出された遺構は、土坑８基、溝跡３条、柱穴28基である。出土した遺物は希薄で、須恵器、陶磁器、古銭などである。遺構・遺物は調査区の全域に分布するが全体的に遺構・遺物の密度は薄く、残りもよくない。これは今回の調査区が本遺跡の縁辺にあたることや、昭和40年代の耕地整理などに起因するものと考えられる。

特記される主な遺構としては、墓坑と推定される土坑群があげられる。土坑では火葬骨を埋葬した土坑、また土葬墓の２種類が調査により確認された。火葬墓、土葬墓は東西に並んで検出されている。火葬墓、土葬墓が構築された時期の前後関係は、遺構同士の切りあいがないため判断できないが、土葬墓が構築された年代は木棺の底板の下面より寛永通宝の文銭が出土していることから少なくとも17世紀半ば(1668年)以降と考えられる。またこれらの土葬墓、火葬墓はＤ区にまとまって検出されており、Ｃ、Ｅ区にはそれぞれ検出されていない。比較的狭い限られた範囲に集中することから、集落周辺の墓域として利用されたものと推定され、当該期の集落が未検出である事からも墓域を離した可能性も考えられる。

山形市内では、須川左岸の中谷柏地区に所在する谷柏Ｊ遺跡で、中世から近世にかけての火葬墓、土葬墓が検出されているが、近世の墓坑の発掘調査例は未だ少なく、墓制については不明な点が多い。

平成10年度の本遺跡の調査では奈良～平安時代、中世の遺構、遺物が主体的に検出され、近世に属すると考えられる遺構はほとんどない。また、遺物も近世の黒瓦片が、表土中より出土しているのみである。

今回の調査から吉原Ⅰ遺跡は、奈良～平安時代から中世・近世まで断続的に集落が営まれたことが推測される。

今回の調査区に関していえば、奈良～平安時代は集落の縁辺にあたり、近世については集落としての利用はほとんどされなかったのではないかと考えられる。今後、周辺遺跡や若宮の楯跡調査成果および吉原地区内の歴史的環境なども含めた総合的な検討をしていかなければならない。

〈参考文献〉

「山形市史上巻」
山形県埋蔵文化財センター「石田遺跡発掘調査説明資料」2000
山形県埋蔵文化財センター「谷柏Ｊ遺跡発掘調査説明資料」1998
宮城県文化財調査報告書第174集「山王遺跡Ⅴ」1997年3月
山形市教育委員会「吉原Ⅰ遺跡発掘調査説明資料」1998
山形市教育委員会「成沢西遺跡発掘調査説明資料」1998
山形市教育委員会「吉原Ⅲ遺跡発掘調査説明資料」1999
山形市教育委員会「双葉町遺跡発掘調査説明資料」1999
山形市教育委員会「石田遺跡発掘調査説明資料」2000
有海　庄右エ門　「ふるさと南沼原」平成３年

報告書抄録

ふりがな	よしはらいちはっくつちょうさほうこくしょ
書名	吉原Ⅰ遺跡発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第10集
編集者名	植松　薫
編集機関	山形市教育委員会
所在地	〒990－8540　山形県山形市旅篭町二丁目3番25号　ＴＥＬ023-641-1212
発行年月日	2001年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
吉原Ⅰ よしはらいち	山形県 やまがたけん 山形市 やまがたし 大字吉原 おおあざよしはら 字若宮 あざわかみや	6201	平成６年度 登録	38度 13分 24秒	140度 18分 43秒	20000315 ～ 20000407	560	店舗建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉原Ⅰ遺跡	集落跡	奈良～平安時代	奈良～平安時代	須恵器（甕）	
		近世	土葬墓 火葬墓	寛永通宝	
					総出土箱数３箱

図　　版

D区遺構完掘状況（西から）

遺構完掘状況（南西から）

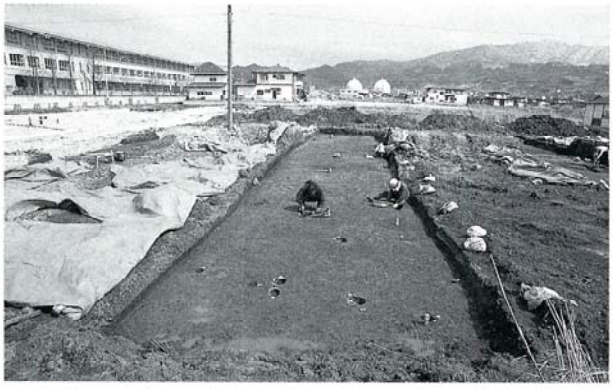
図版2

調査前状況（南西から）

C区遺構検出状況（西から）

面精査作業（東から）

作業風景（南東から）



B区調査状況（西から）

D区遺構検出状況（西から）

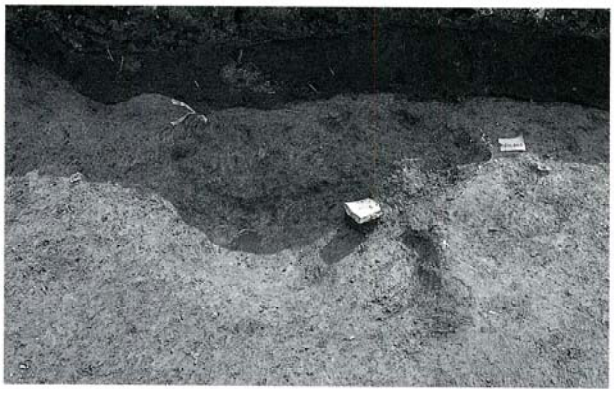
C区遺構完掘状況（東から）

図版4

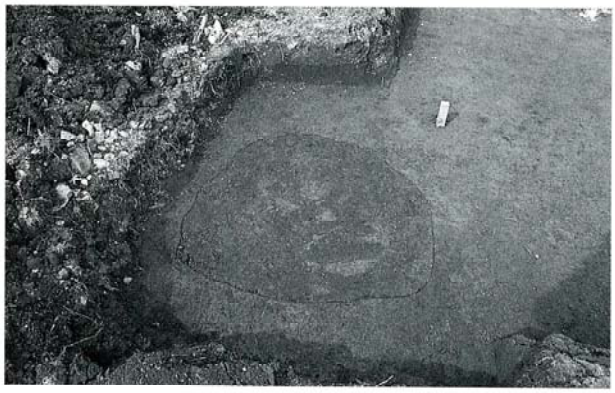
A区遺構完掘状況（西から）

SK401土層断面（北から）

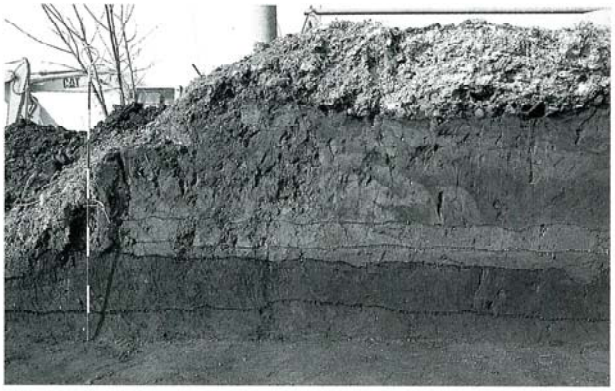
SK402土層断面（南から）



SK401完掘状況（北から）

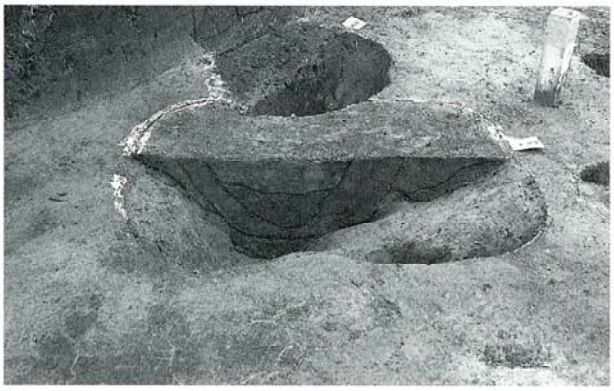


A区SK402検出状況（南から）

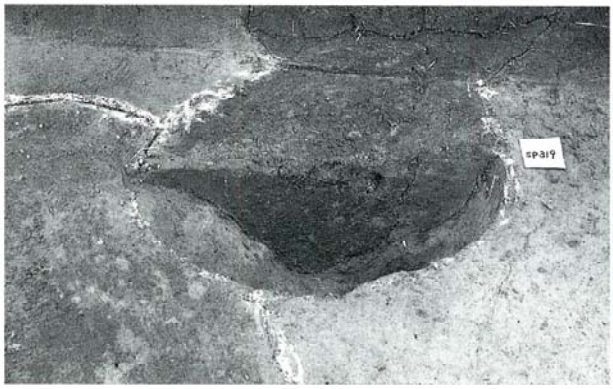


B区基本層序（南から）

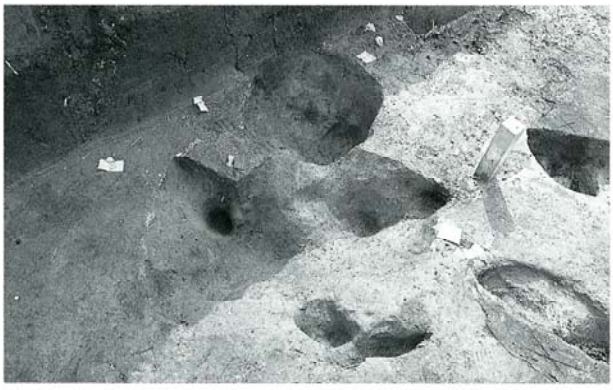
SP411完掘状況（南から）



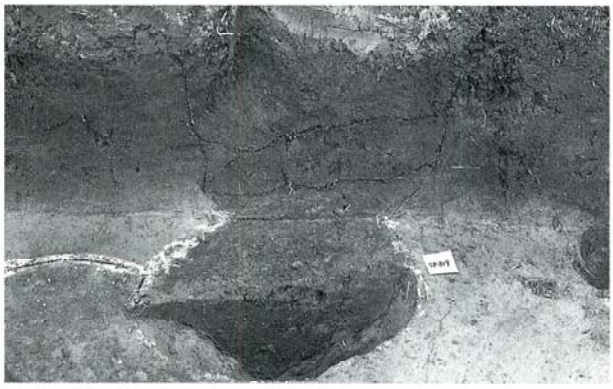
SK404土層断面（北東から）



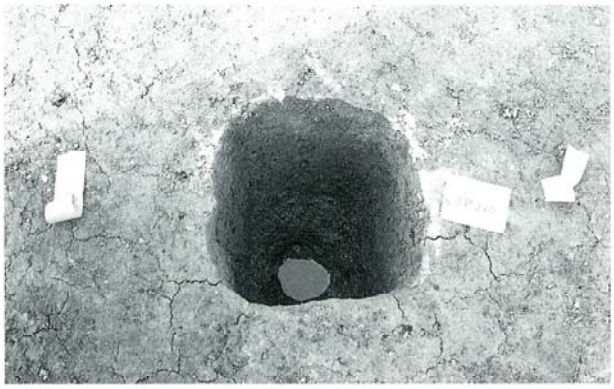
SP419土層断面（北から）



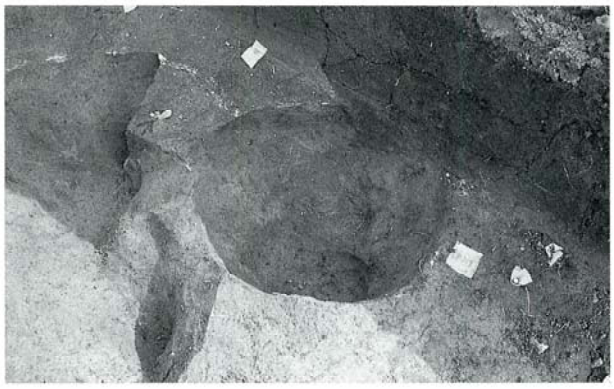
SK404完掘状況（北東から）



SP419土層断面（北から）

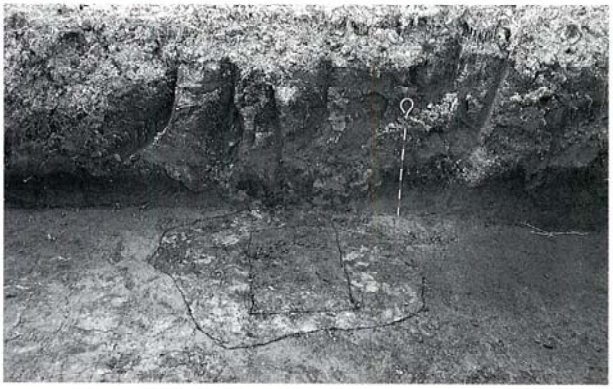


SP410完掘状況（南から）

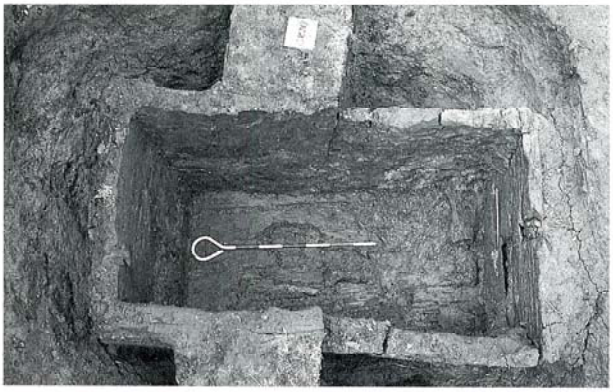


SP419完掘状況（北から）

図版6

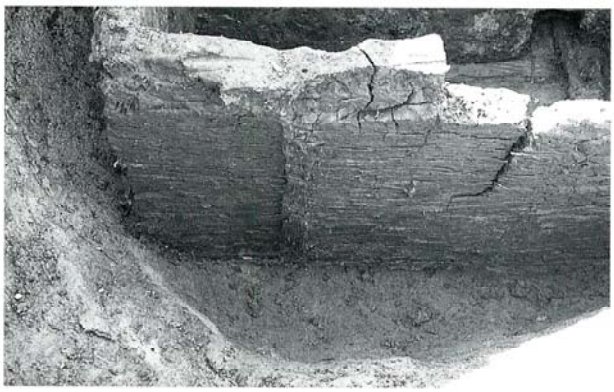


D区SK407検出状況（北から）



SK407底板検出状況（東から）

SK407底板検出状況（北から）

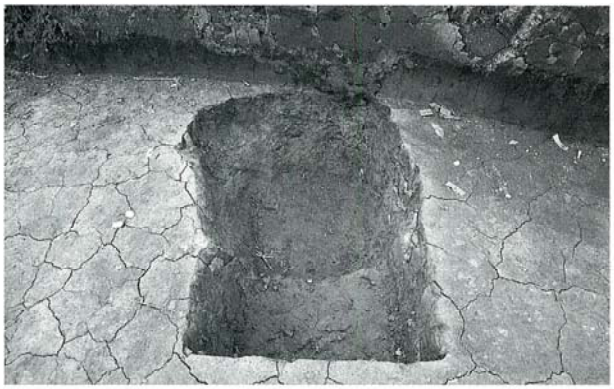


SK407側板検出状況（東から）

SK407土層断面（北から）

SK407木片出土状況（北東から）

SK407古銭出土状況（西から）

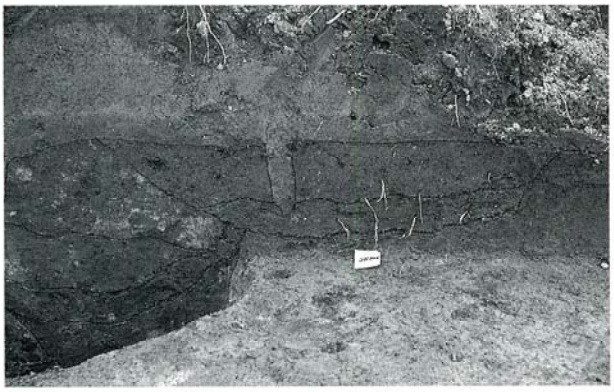


SK407完掘状況（北から）

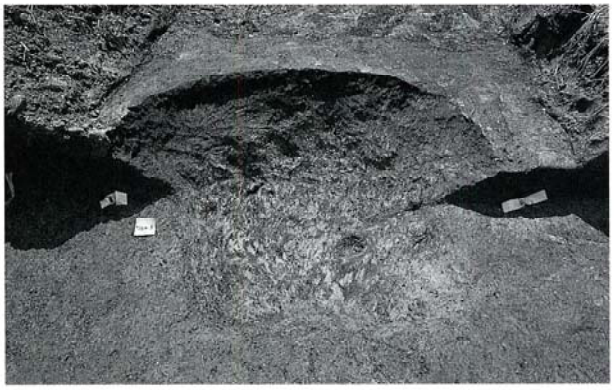
D区SK403検出状況（北から）

SK405土層断面（北から）

SK403土層断面（北から）

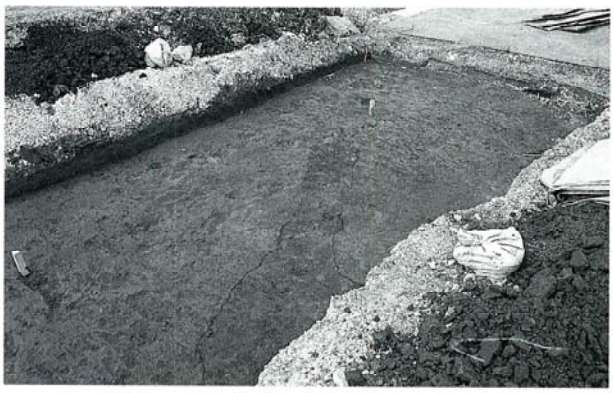


SK406土層断面（北から）



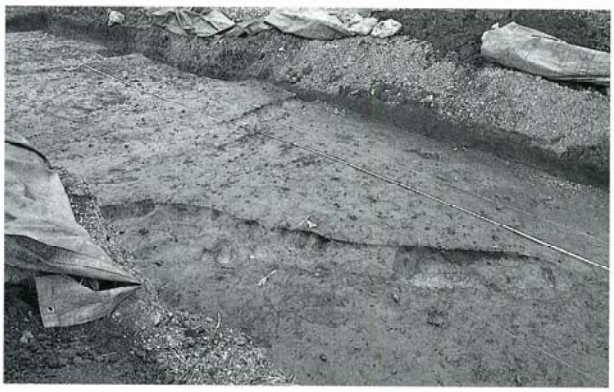
SK403完掘状況（北から）

図版8

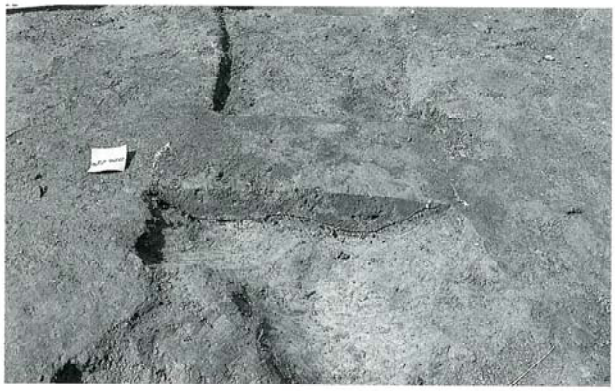


SD420検出状況（東から）

SD409土層断面（南から）



SD420完掘状況（北から）



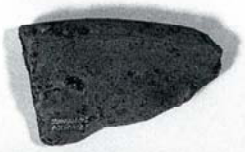
SD420土層断面（東から）

E区完掘状況（西から）

9-1

9-1

9-2

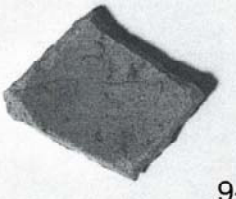


9-2

9-3

9-3

9-4



9-4

図版10

9-5オモテ

9-5ウラ

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第10集

吉原Ⅰ遺跡発掘調査報告書

2001年３月31日　発行

発行　株式会社カワチ薬品
〒323-0061
栃木県小山市大字卒島1293番地
電話　0285－37－1111

山形市教育委員会
〒990-8540
山形県山形市旅篭町二丁目３番25号
電話　023－641－1212
印刷　田宮印刷株式会社